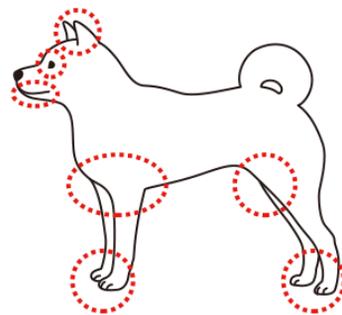


# 犬アレルギー性皮膚炎とは

室内棲息ダニや花粉などの環境中のアレルゲン(抗原)に対する過剰な免疫反応によって起こります。3歳以下の若いうちに発症します。はじめは季節性に症状が現れますが、年齢を重ねるとともに一年中症状が出てしまうケースがあります。完治は難しいといわれており、生涯にわたりアレルギーの体質と上手に付き合うことが大切です。

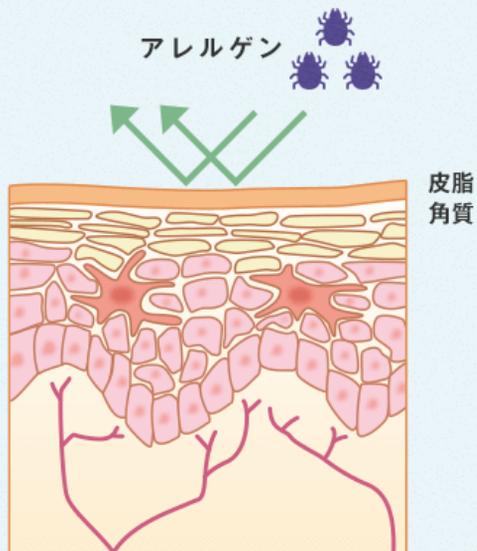
## 《症状》

- 皮膚のかゆみ(掻く、舐める、かじる)
- 外耳炎
- 脱毛
- 皮膚の色素沈着
- 繰り返す膿皮症(皮膚に菌が入り込む)
- マラセチア性皮膚炎(常在カビの異常繁殖)

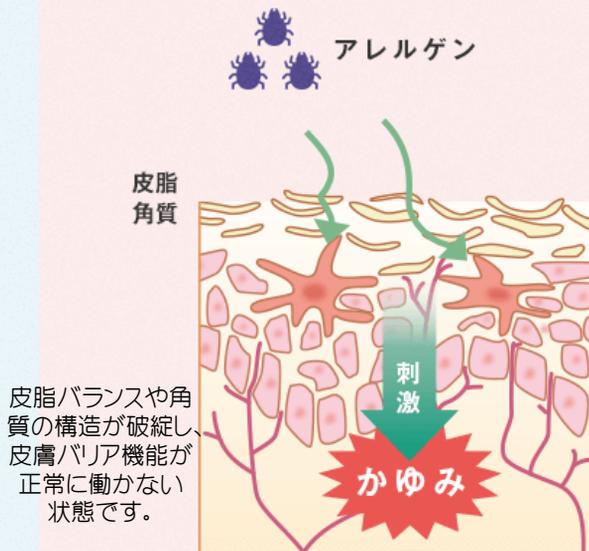


● 症状が出やすい部位

## 正常な皮膚



## アレルギー性皮膚炎の皮膚



皮脂バランスや角質の構造が破綻し、皮膚バリア機能が正常に働かない状態です。

## 《主な治療》

### ◆ 内服薬

膿皮症に対して抗菌剤、マラセチア性皮膚炎に対して抗カビ剤で治療します。かゆみに対してはかゆみ止めを使用しますが、大きく分けて2つに分かれます。

- ステロイド系:効果が高く、安価ですが高容量を長期的に使うと肝臓などに負担がかかります。
- 非ステロイド系:副作用が少ないお薬ですが高価です。

### ◆ 食事療法

皮膚バリア機能を補うための脂肪酸、ビタミン類、亜鉛、銅などを強化した療法食があります。投薬量や投薬頻度の減少が期待できます。

### ◆ シャンプー療法

皮膚の状態に合わせた薬用シャンプーで皮膚や毛についたアレルゲンを除去し、炎症を鎮めたり皮膚バリア機能を補います。シャンプーだけだと乾燥しやすいので、保湿剤も併用することが多いです。週1~2回程度行います。